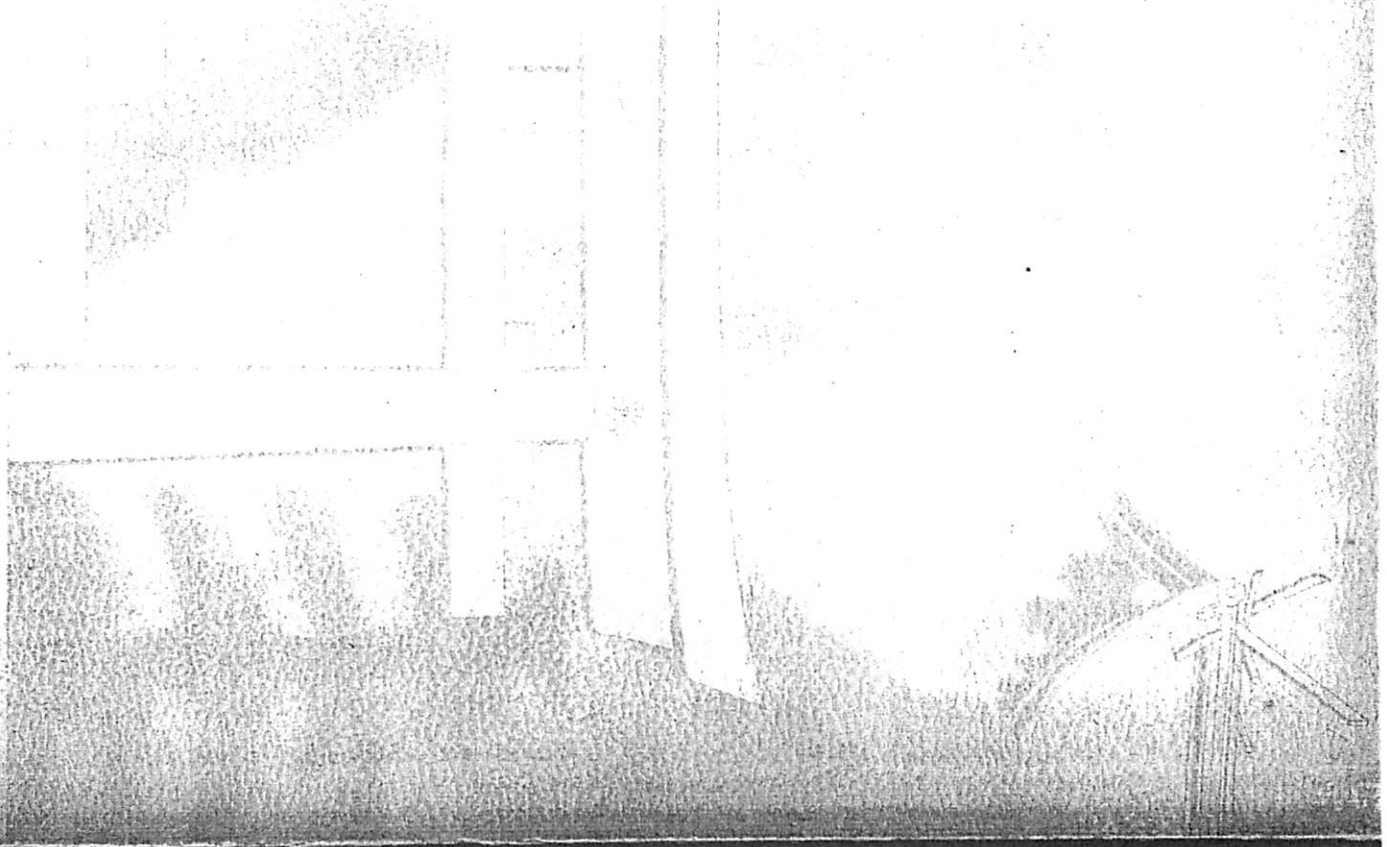


第六回明治神宮体育大會報告書





### 四、準備並に計劃

馬術	三六	陸上	三三	卓球	一五
事務	一三	大會を願みて	二六		
排球	一	龍球	三	艇上	七
蹴球	八	ホッケー	三	水上	五
相撲	三〇	柔道	三	弓道	五
相撲	三〇	馬術	四	射擊	五
體操	三	陸上	四	擊球	三
テニス	七	スキー	六	蹴球	三
卓球	三	大會一覽	七	野球	七

### 五、庶務並に會計報告

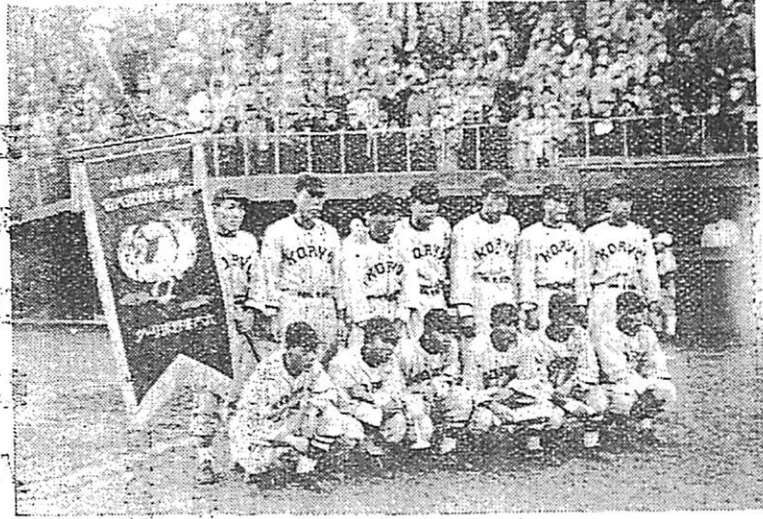
優勝額奉獻式	三	評議員會	三	總務委員會	七
全國體育主事招待會	三	大會役員慰勞會	三	收入增加委員會	三
外苑競技場完成準備會	一四	昭和五年度決算報告	二五	昭和六年度決算報告	一九

### 六、明治神宮鎮座十週年奉祝體育大會

陸上	三	野球	八	庭球	三
ラグビー	一四	ホッケー	六	蹴球	七
籠球	八	ボート	三	水上	三
弓道	二	射擊	三	相撲	三
柔道	二	排球	三		

# 第六回明治神宮體育大會

中等野球に優勝の廣陵中



# 野球競技

# 競技成績

期日 十月三十一日、十一月一、二、三日

場所 明治神宮外苑野球場 戸塚早大球場

## 五大學新人試合

優勝 早稲田大學新人

## 中等學校選抜試合

優勝 廣陵中學校(廣島縣)

## 中等學校選抜試合

### 第一回戦

#### 中京商業 一 A O 神港商業

第六回神宮體育大會中等學校選抜野球大會第一日は十一月

月一日午前八時半、前回の優勝校神港商業主將の優勝旗返還式に續いて同四十分より開始。審判辻、(球)關口、三浦三氏。

#### 〔試合經過〕

神港先攻。(神0・中0) 神港清瀬右前安打したが平田スリーバントを敢行して捕前匍となり清瀬を封殺、釣の

遊飛に仆れた後平田二盗したが高島右飛に無爲。

裏の中京大鹿四球に出たが二盗に死し、恒川一邪飛、櫻井投匍。

△第二回、(神0・中0) 神港、岸本左飛、村上投匍の二死後太田左翼安打に出たが瀧田三匍。

裏の中京も鈴木、村上續いて三振、吉岡三邪飛に走者なし。

△第三回(神0・中0) 神港、島投匍、清瀬左飛、平田も三壘を強襲したが野手の好防に出壘者なし。

裏の中京は吉田遊圃ハンブルに出たが後藤再度迄バントを失敗した後右飛、杉浦中飛、大鹿左飛で機とならず。

△第四回(神0・中0) 神港、釣三圃、高島遊圃、何れもよい當りであつたが野手好守して阻み、岸本も遊圃で走者なし。

裏の中京も恒川遊飛、櫻井一直、鈴木左飛で無爲。

△第五回(神0・中0) 神港、村上遊圃、太田一圃、瀧田三振で依然走者を出さず。

裏の中京も村上三圃し吉岡二飛、吉田左飛で兩軍息づまる投手戦に試合は何の變化をも起さず。

△第六回(神0・中0) 神港、島遊飛後清瀬、遊圃低投で久々の走者を見たが平田遊飛した上釣の遊圃で清瀬封殺されて無爲。

裏の中京は皆第一球を規つて後藤中右間安打に最初の安打

走者となり、杉浦のバントは一壘線に沿つて内野安打となり兩軍を通じて初めて二走者を出した上大鹿のバントに送られ絶好のチャンスとなつたが恒川アウドロを振つて三振りし、櫻井もドロップを右飛して點とならず。

△第七回(0神・中1) 神港、高島投手を強襲したが一壘に刺され、岸本は遊圃、村上は三圃、何れも吉田のカージに快打なし。

裏の中京は六回の攻撃に續いて鈴木亦第一球を左前に二壘打し村上の遊圃で三進、神港守備を淺くして本壘を死守したが吉岡の三圃を野手ハンブルして鈴木生還、兩軍唯一のランを挙げた。尙一死であつたが吉田の遊飛を野手落球して吉岡封殺、後藤三邪飛して一點に止まる。

△第八回(神0・中1) 神港、太田二圃、瀧田投圃、島二壘手左に直球の安打したが清瀬の遊圃に封殺されて逆襲

成らず。

裏の中京は杉浦二飛大鹿三圃の二死後恒川左翼線沿ひに二壘打したが櫻井遊圃して入らず。

△第九回(神0) 神港好打順を以て棹尾の一戦を期したが吉田のカージに惱んで平田左直、釣遊圃、長島三振に走者なく、茲に前回の優勝チーム神港も一A對零を以て敗退した。閉戦十時〇八分。

#### 〔概評〕 息詰まる投手戦

老巧の岸本は球速、カージ共に調子よく、會心のコントロールを以てさしもの中京勢に息もつかせず、五回迄を無安打に薙去つたに對し、今夏甲子園の覇権を握つた中京吉田の球威は若干重味に欠けた上カージのコントロール十分ならず、一、二回共に神港打者に乗せられたが、流石に百

戦の功と自信に強き試合度胸は漸次調子を取返して三回頃からは得意の球力に復し兩々劣らぬ投手戦を交へた。唯老巧の岸本に若干疲労の加へた六回頃から鋭氣の中京は第一球の好球を規つて神港の陣を亂し、七回の先登者鈴木の一撃はとうとう、味方にチャンスを掴ませて、本壘を警戒した神港陣形の招いた釣の一矢が遂に此の大接戦を決定させて了つた。併し此の神港の敗戦は寧ろ岸本の投手力にあらざして全軍唯力の敗績と見るべきである。第一回の劈頭に唯一度無死の走者を出したのみ、それも平田のバント拙くして機を逸し、爾後完全に吉田の球威に壓せられた神港の攻撃力は結局此の結果を受取る外はなかつたであらう、吉田の投手力に加はへて打力に一步の長あつた中京の勝は當然の歸結と見て差支えない。

(中 京)

	打	得	安	機	盜	三	四	刺	補	失
	數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
7 大 鹿	2	0	0	1	0	0	1	3	0	0
4 恒 川	4	0	1	0	0	1	0	2	1	0
2 櫻 井	4	0	0	0	0	0	0	2	1	0
9 鈴 木	3	1	1	0	0	1	0	1	0	0
8 村 上	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0
5 吉 岡	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0
1 吉 田	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0
3 後 藤	3	0	1	0	0	0	0	15	0	0
6 杉 浦	3	0	1	0	0	0	0	4	7	0
	28	1	4	1	0	3	1	27	17	1

〔三壘打〕 鈴木、恒川  
〔時間〕 一時間二十八分

(先 攻)

	打	得	安	機	盜	三	四	刺	補	失
	數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
6 清 瀨	4	0	1	0	0	0	0	2	3	1
8 平 田	4	0	0	0	1	0	0	1	0	0
5 釣	4	0	0	0	0	0	0	2	2	1
2 高 島	4	0	0	0	0	1	0	3	1	0
1 岸 本	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3 村 上	3	0	0	0	0	0	0	7	1	0
9 太 田	3	0	1	0	0	0	0	2	0	0
7 瀧 田	3	0	0	0	0	1	0	3	0	0
4 島	3	0	1	0	0	0	0	4	0	0
	31	0	3	0	1	2	0	24	8	2
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
(神) 得 點	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安 打	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
敵 失	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
殘 壘	1	1	0	0	0	1	0	1	0	4
(中) 得 點	0	0	0	0	0	0	1	0	A	1
安 打	0	0	0	0	0	2	1	1		4
敵 失	0	0	1	0	0	0	1	0		2
殘 壘	0	0	1	0	0	2	1	1		5

## 廣陵中學 六 A 三 小倉工業

廣陵對小倉は十一月一日午前十一時から三宅(球)大  
 瀧、西本三氏審判の下に外苑球場に於て開戦。快晴微風。

## 〔試合経過〕

小倉先攻。(小1・廣0) 田才二捕、松井中堅右に三壘  
 打して新富の遊撃右を抜く安打に生還、早速一點を挙げ、  
 續いて植田の三壘掠めた安打、藤本の中前安打と矢繼早や  
 に四安打を浴びせて廣陵阪田投手の落城を思はせたが小倉  
 走壘を焦慮つて新富は藤本の中前安打に一舉本壘を衝いて  
 中堅の好投に本壘に刺され藤本も酒井の遊捕にタッチアウ  
 トされて一點に止まつたのは惜しい。  
 裏の廣陵は角谷三飛、志摩中飛、岩本三振ナットアウトに  
 一壘に刺されて無爲。

△第二回。(小0・廣0) 小倉重住三捕、鶴田三振、山田

抜いて出たが重住の二飛後鶴田の二捕に封殺さる。小倉の  
 打者皆打ち急いで第一球を凡打した。

裏の廣陵、楠木投捕、部矢遊捕ハンブルに出たが濱田の二  
 捕で封殺、山田も二越安打に出たが濱田投手牽制球で三壘  
 に徒死して機とならず。

△第五回。(小0・1廣) 小倉、山田左飛、田才遊直、松  
 井捕邪飛好捕で出壘なし。

裏の廣陵は球威次第に衰えた植田の第一球を覘つて角谷遊  
 飛、志摩投捕の二死後岩本左越の三壘打し阪田も遊三間安  
 打して一點を加へ試合をリードした。八百野封殺。

△第六回。(小0・廣0) 小倉、新富左前安打して直ちに  
 二盗チャンス到るかと思つたが植田三振、藤本捕邪飛、酒  
 井左飛して依然無爲。

裏の廣陵も楠木、部矢とつゞいて中前と三遊間に安打して

は四球を擇んだが田才三振して凡退。

裏の廣陵は阪田四球に先發し八百野のバントを投手失して  
 二走者を出したが楠木二度共スキズを失敗して阪田三壘  
 に徒死、更らに楠木の遊捕で八百野も二壘に封殺、楠木は  
 二走者を仆した。部矢投捕して廣陵此のチャンスを徒消し  
 た。

△第三回。(小0・廣1) 小倉、松井右飛、新富捕邪飛、  
 植田も右飛して、阪田漸く調子を復す。

裏の廣陵は濱田四球に出て山田バントを失敗した後一捕に  
 死したが角谷、志摩共に四球につゞいて一死満壘となつた  
 時岩本二壘手右翼間に安打し濱田生還して同點となる。阪  
 田も好打したが遊撃直球となり、八百野の二捕に岩本封殺  
 されて已む。

△第四回。(小0・廣0) 小倉、藤本三捕、酒井遊撃右を

好機來を思はせたが濱田三振山田一飛に遮られ角谷四球で  
 満壘となつた後志摩も一捕に仆れて點とをらず。

△第七回。(小1・廣1) 小倉、重住中前飛球し野手日光  
 に遮られて三壘打となり、鶴田は中飛したが、山田の遊三  
 間安打に一點を返して又同點となる。尙田才も四球に出て  
 有望に見えたが松井の投捕に山田三壘に封殺され、新富の  
 遊捕に松井も封殺されて一點に止まる。

裏の廣陵も劣らず岩本、阪田共に四球に出壘した上岩本巧  
 みに捕手を釣つて三盗に成功し八百野の遊飛は阪田を一壘  
 に併殺したが楠木の遊捕ハンブルに岩本還つて又一點を先  
 んじた。部矢三捕して楠木を封殺して了る。

△第八回。(小0・廣3) 小倉、植田遊捕ハンブルに出た  
 が藤本二度共バント失敗して三捕好守に植田封殺、藤本も  
 酒井の遊捕に封殺、酒井は二盗に失して機とならず。



裏の廣陵は濱田右前に安打して山田のバントに送られ角谷、志摩と共に四球についで一死満塁となつた上岩本の投手強襲安打に濱田生還し、阪田も遊撃左を抜いて角谷、志摩より八百野は死球で又満塁となつたが楠木三振して丁る。廣陵此の棹尾の活躍に三點を加へて確實に試合を握つた。

△第九回。(小倉1) 小倉奮起、重住遊撃を直球に抜き鶴田は遊飛したが山田は四球、茲で田才遊撃に強襲安打して重住を入れ一點を返したが松井二併して田才を併殺し萬事了る。スコア六A對三。閉戦零時五十八分。

〔概評〕 植田投手振はず。

夏の甲子園大會の廣陵は守備力と打力に相當の強味を持ちながら投手力に恵まれなくて中京の一蹴に會つた。今度の廣陵には八幡製鐵から阪田を迎えて其陣容は充實して居

る。阪田は頑丈の体格に適はしい重い球を持つて、十分囓目さるべき將來と地力を有つて居る。まだプレートのこなしにギョチなさはあるが鍛えて大成すべき素質の投手である開戦匆匆、まだ落つきの出ない間に小倉の打者に乗せられて四安打の集中を蒙つたのは敵手よりも場所負けの爲であつた。併し茲で一崩れを免れたのは阪田の幸運でもあつた。

小倉の植田は夏よりもフォームが整つて來たが威力を減じて居た。別して其の制球力の荒れて居たことは植田の生命を半減させるものであつた前後敵に與へた四死球十、これでは試合を守り得ない。最後に廣陵の搏撃を蒙つたのも之が爲である。植田の健闘によつて軍の威力を發揮して居た小倉が植田の不調によつて振はなかつたのは己むを得ない。

植田の乏しかつたと共に堅實を誇つた小倉の守備も不首尾を極めた。前後に六失を算して廣陵の攻撃力を助長したことは益試合を難澁にした。攻撃に第一回の絶好チャンスを通し、七、九回の好機を最小限度の得點に止めたことも物足りなかつた。小粒に揃つた小倉の特色が斯くして凡てに榮えなかつたことは結局敗戦に甘んずる外はなかつた。

廣陵の攻撃も今一步の鋭さを欠いて三、六、七と頻發したチャンスは極少の收穫に甘んじて居たが、最後の追撃に三點を擧げて留めの鐵槌を下したことは持つた地力の強味とも言へやう、特に岩本が四度得點に與つた打力の偉勳は異彩を放つた。

(廣 陵)

		打	得	安	機	盜	三	四	刺	補	失
		數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
8	角 谷	2	1	0	0	0	0	3	1	1	0
7	志 摩	3	1	0	0	0	0	2	2	0	0
9	岩 本	4	2	3	0	1	1	1	2	0	0
1	阪 田	3	0	2	0	0	0	2	0	1	0
6	八 百 野	3	0	0	1	0	1	1	4	3	1
3	楠 木	5	0	1	0	0	1	0	5	0	0
2	部 矢	4	0	1	0	0	0	0	7	1	0
4	濱 田	3	2	1	0	0	1	1	5	3	0
5	山 田	3	0	1	1	0	0	0	1	3	1
		30	6	9	2	1	4	10	27	12	2

〔時間〕 一時間五十八分

八百野—楠木

〔併殺〕 田才—重住、新宮—山田、濱田—

〔三壘打〕 松井、重住、倉本

(先 攻)

(小 倉)

		打	得	安	機	盜	三	四	刺	捕	失
		數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
6	田 才	4	0	1	0	0	1	1	5	2	2
8	松 井	5	1	1	0	0	0	0	1	0	0
2	新 富	4	0	2	0	1	0	0	3	3	1
1	植 田	4	0	1	0	0	1	0	1	5	1
4	藤 本	4	0	1	0	0	0	0	3	1	0
7	酒 井	4	0	1	0	0	0	0	0	0	1
3	重 住	4	2	2	0	0	0	0	7	1	1
9	鶴 田	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0
5	山 田	2	0	1	0	0	0	2	4	1	0
		35	3	10	0	1	3	3	24	13	6

(小 倉)

(廣 陵)

		一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
得	點	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3
安	打	4	0	0	1	0	1	2	0	2	10
敵	失	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
殘	壘	2	1	0	1	0	1	2	0	1	8
得	點	0	0	1	0	1	0	1	3	A	6
安	打	0	0	1	1	2	2	0	3		9
敵	失	0	2	1	1	0	1	1	0		6
殘	壘	0	1	3	1	1	3	1	2		12

野 球

四六一

野 球

四六一

## 松山商業 五——三 早稻田實業

戸塚球場に於ける第一回戦は外苑と同じく十一月一日午前十時三十四分から松山商業對早稻田實業の試合を開始した。審判森田(球)井川、牧野三氏。

## 〔試合経過〕

松山先攻 (松0・早0)、松山、高須左飛失に出たが宇野二飛、藤野一直、尾茂田三振でつつかす。

裏の早實も金子最初から遊撃直球の安打に出たが田川のバント投筒となつて金子を封殺星野も投筒して田川を封殺島津の右前安打で星野一氣に三壘に進んだが清水遊筒して入らず。

△第二回 (松0・早1) 松山、尾崎三匍、三森中飛、影浦三匍で走者なし。

裏の早實は安永先頭から中越の二壘打し三日月投筒本橋の

右飛後荒井も遊筒失に出で金子の中前安打に安永入つて先づ一點荒井も一氣に三壘を衝いたが、刺されて已む。

△第三回 (松2・早0)、松山、山内投筒遊撃に出で岩見も捕前匍の内野安打につづいて機となり、高須の遊飛後、宇野左中間に二壘打して二走者を入れたが宇野は一氣三壘を胃して刺さる。次で藤堂も中前に安打し、尾茂田も二壘左手を抜いて出たが尾崎の第一球捕逸に藤堂本壘を衝いて刺され二點に止まつた。此の後段の好機を徒費した走壘は惜しい。

裏の早實は田川遊筒後星野三遊間に直球安打したが島津の三振目に星野一壘に併殺されて已む。

△第四回 (松0・早0)、松山、尾崎三森共に遊筒影浦三匍に走者なし。

裏の早實は清水の左飛後安永左越の二壘打を放つたが三日

月中飛本橋投飛に無爲。

△第五回 (松0・早0)、松山、山内先づ遊三間安打に出で岩見のバントに進んだが高須中飛、宇野遊飛に終つて機とならず。

裏の早實も荒井右前安打して出たが捕手の牽制球に刺され金子は三振田川二匍で徒過。

△第六回 (松3・早0)、松山、藤堂又遊三間安打に先登し尾茂田の右飛は日光安打となりつづく尾崎のバントを三壘拾つて一投したが壘手落球して藤堂生還、尾茂田もつづいて本壘を衝かんとし一捕一三の送球に刺さる。次で三

森も四球を採び、影浦の一邪飛後山内大きく右越に三壘打して二點を入れ尙岩見も四球に出で二盗したが高須中飛し了る。

裏の早實は星野投直、島津二匍、清水は三匍一壘落球に生

きたが安永の遊筒に封殺されて依然逆襲の機なし。

△第七回 (松0・早0)、松山、宇野三振、藤堂遊筒失に出たが二盗に死し尾茂田も遊筒に無爲。

裏の早實も三日月投筒、本橋二飛荒井中飛で凡退。

△第八回 (松0・早2)、松山、尾崎の左飛後三森中右間三壘打を放つたが影浦の遊筒と山内の投筒で點に成らず。

裏の早實は金子四球の走者となるや田川右中間に三壘打して金子を迎え星野の投筒後島津の投手強襲安打に田川も入つて二點、尙一死であつたが清水三匍して島津を併殺して已んだ。

△第九回 (松0・早0)、松山、岩見遊撃を強襲して其の一壘遊投に二進したが高須の投筒で三壘に刺され高須は二盗に成功したが宇野遊飛し、藤堂二匍して點とならず。

裏の早實も安永三筒、三日月に代る山口は三振、本橋三筒で最後の攻撃成らず五對三を以て松山商業の勝ちとなつた。閉戦零時三十二分。

〔概評〕 松山地力の強味

松山は三森をセーブして影浦を起てたが早實毎回の安打を見せながら打力一歩にして足らず。唯二回の一點のみを以て、七回迄試合を押された。漸く八回のチャンスを抑へ

で悼尾の勇を揮つたが得点差は大きく大勢を動かす力はなかつた。

早實島津も克く健闘したが打力の松山は、適時の安打を集注して三、六回の兩度に得点を纏めて安泰な勝利を振つた。早實の投手力が及ばなかつた上に打力にも松山の地力は一歩の長を有つて居た。早實が守備に五失を出して敵鋭を煽つたことも、松山の下風に至つたものであつた。

失 捕 刺 四 三 盜 犠 安 得 打

(先 攻)  
(松 山)

打 數	得 點	安 打	犠 打	盜 塁	三 振	四 死	三 殺	捕 殺	失 策
6	0	0	0	1	0	0	2	3	1
7	0	1	0	0	1	0	1	0	0
2	1	2	0	0	0	0	3	2	0
8	0	2	0	0	1	0	2	1	0
4	1	0	1	0	0	0	3	3	0
5	1	1	0	0	0	1	1	3	0
1	0	0	0	0	0	0	2	5	0
3	1	2	0	0	0	0	12	0	1
9	1	2	1	1	0	1	1	0	0

35 5 10 2 2 2 2 27 17 2

一 二 三 四 五 六 七 八 九 計

得 安 敵 殘	點 打 失 壘	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
(松)	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	5
	0	0	4	0	1	3	0	1	1	1	10
	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	5
	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	6

得 安 敵 殘	點 打 失 壘	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
(早)	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	2	2	1	1	1	0	0	0	2	0	9
	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	5

			打	得	安	犠	盗	三	四	刺	捕	失
			数	点	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
8	金	子	3	1	2	0	0	1	1	3	1	0
2	田	川	4	1	1	0	0	0	0	2	3	0
5	星	野	4	0	1	0	0	0	0	3	4	0
1	島	津	4	0	2	0	0	1	0	1	3	1
6	清	水	4	0	0	0	0	0	0	4	5	2
3	安	永	4	1	2	0	0	0	0	12	1	1
9	三	明	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PH	山	口	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
4	本	橋	4	0	0	0	0	0	0	1	2	0
7	荒	井	3	0	1	0	0	0	0	1	0	1
			34	3	9	0	0	3	1	27	19	5

〔三壘打〕 山内、三森、田川

〔二壘打〕 宇野、安永<sup>2</sup>

〔併殺〕 藤堂―山内、三森―尾崎―山内

〔時間〕 一時間五十八分

### 廣島商業 二A―一 平安中學

△第一日午後一時三十五分から戸塚球場に於て開始、審判

松本(球)、田部、松井両氏

△平安先攻 (平1・廣0) 平安本田左飛、中村三壘右に  
安打し岡村の二脩に併殺せんとした三壘手失で三進し次  
で捕逸に生還一點を先取した上内海、中川も四球に續いた  
が伊藤一飛して點を加へず。

裏の廣商は久森遊前内野安打に出たが鶴岡の右邪飛後太田  
の二脩で併殺さる。

△第二回 (平0・廣0) 平安、波利遊脩、山木三壘横の  
安打に出たが和田の投脩でこれも併殺に了る。

裏の廣商も灰山三脩惡投に出たが竹岡、保田連三振の後土  
手三脩して機とならず。

△第三回 (平0・廣0) 平安、本田三振、中村中飛、岡  
村は四球を擇んだが内海の三振に無爲。

裏の廣商は田原三脩濱崎左飛の二死後から久森、鶴岡、太  
田と四球つづきの満壘となつたが灰山の遊脩で尙點に至ら  
ず。

△第四回 (平0・廣0) 平安、中川中堅安打に先發した  
が伊藤の投脩に封殺、伊藤は投手暴投と波利の二壘手左を  
抜く安打に三進したが山本、和田續いて三振に仆れモノに  
ならず。

裏の廣商も竹岡三壘をバウンドに抜いて先發したが保田の  
遊脩に封殺、續く土手も右翼線に二壘打して保田三進、絶  
好のチャンスと見へたが田原三振に退き、濱崎四球で満壘  
となつた後久森の三脩は土手を封殺して點とならず。兩軍  
共にチャンスを應酬するのみに了る。

△第五回 (平0・廣2) 平安、本田四球を得て第一走者を出したが二盗に死し中村の左飛、岡村の三振に依然無爲。

裏の廣商は、鶴岡二塁手前に内野安打し太田死球、灰山の中飛に鶴岡三進した後竹岡三壘越の安打して鶴岡生還、尙左翼手からの送球を投手三壘突進の太田を刺さんとして悪投太田をも入れて二點、試合は逆に廣商のリードとなつた尙つづく保田も右前安打し竹岡一氣三壘を陥し土手も四球で一死満塁の好機を迎えたが田原に代る驥本の三捕で竹岡は本壘に驥本は一壘に併殺されて二點に止まつた。

△第六回 (平0・廣0) (廣商驥本右翼に入り田原退く) 平安、内海遊撃左に安打したが中川、伊藤共に右飛に刺され、波利の二越安打も内海を三壘に送つたのみ山本の三振に此機も徒過。

△第九回 (平0) 平安、最後の攻撃振はず和田投捕、本田二捕、中村三振に退して、二対一、廣商の勝ちとなつた。閉戦三時三十四分。

〔概評〕 物足りなかつた兩軍の攻撃力

平安は前後九安打して漸く捕逸の一點を占め、廣陵は八安打してアードラン一、敵失一點の二點に止まつた。兩軍共に第一走者を出すこと五回、平安は其の一回をも收獲し得ず、廣商は一回之をチャンスに取入れた。兩軍の併殺合せて六、好防に似たりとも徐ろに戦跡を顧みて攻撃の拙なりしを惜しまざるを得ない。平安は灰山のカーヴを與みし易しと見て四回後のチャンス悉くヒツチングに出て、正攻法忘れ、却つて老獪な投手の罠に陥ちた。廣商も頻出したチャンスを悉く打氣に出て失敗に了つた。唯五回目に幸運の敵失が勝利點を輪つたとは言へ四、五兩回の絶好機會

裏の廣商も濱崎二飛後久森三壘右を抜いて安打し鶴岡四球につづいたが大田の二捕は鶴岡を封殺、灰山は二直に仆れて機とならず。

△第七回 (平0・廣0) 平安、和田捕前に當り損ねの内野安打し、本田四球で無死二走者を出しながら中村投飛した後岡村の二捕は本田を併殺してチャンスを逸す。裏の廣商は竹岡、保田共に三捕土手は遊捕で凡退。

△第八回 (平0・廣0) 平安、内海又三壘安打に先發し中川の左飛後伊藤は四球、波利は中堅安打につづいて二死満塁の絶好チャンスとなつたが山本に代る光林の遊飛に内海三壘を離れて併殺され此の好機亦空し。裏の廣商は驥本捕前捕一壘惡投に生き濱崎の二捕と久森の中前安打に三進したが鶴岡の左飛に飛出して之も併殺されて了る。

を僅かに此の三點に止めて最後迄危道を踏んで居た攻撃振りは決して首肯の出来ないものであつた。平安が遊撃飛球一つで(五回に二點を入れた竹岡の三壘越安打を指す)負けたと口惜しがつたのも無理はなからう。

(先攻) (平安)			打	得	安	犠	盜	三	四	刺	補	失
			數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
8	本	田	3	0	0	0	0	1	2	1	0	0
5	中	村	5	0	1	0	0	1	0	2	5	1
2	岡	村	3	1	0	0	1	1	1	4	1	1
3	内	海	3	0	2	0	0	1	1	9	0	0
9	中	川	3	0	1	0	0	0	1	1	0	0
1	伊	藤	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1
6	波	利	4	0	3	0	2	0	0	2	4	0
7	山	本	3	0	1	0	0	2	0	2	2	0
7	光	林	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	和	田	4	0	1	0	0	1	0	3	3	0
			32	1	9	0	3	7	6	24	15	3

〔時間〕 一時間五十九分

〔併殺〕 平安  
 和田—波利—内海  
 中村—岡村—内海  
 光林—中村

廣商  
 灰山—鶴岡—太田  
 保田—鶴岡—太田  
 鶴岡—太田

〔二壘打〕 土手

(廣商)			打	得	安	犠	盜	三	四	刺	補	失
			數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
7	久	森	4	0	3	0	1	0	1	3	0	0
6	鶴	岡	3	1	1	0	0	0	2	5	3	0
3	太	田	2	1	0	0	1	0	2	7	0	0
1	灰	山	4	0	0	0	0	0	0	1	3	0
8	竹	岡	4	0	2	0	0	1	0	1	0	0
4	保	田	4	0	1	0	0	1	0	0	4	0
2	土	手	3	0	1	0	0	0	1	7	1	0
9	田	原	2	0	0	0	0	1	0	7	0	0
9	駿	本	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
5	濱	崎	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0
			31	2	8	0	2	3	7	27	11	0

(平)		一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
得安敵	殘	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
點打失壘		1	1	0	2	0	2	1	2	0	9
得安敵	殘	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
點打失壘		2	0	1	2	0	2	1	2	0	10
(廣)		0	0	0	0	2	0	0	0	A	2
得安敵	殘	1	0	0	2	3	1	0	1		8
點打失壘		0	1	0	0	1	0	0	1		3
得安敵	殘	0	1	3	2	2	2	0	1		11

## 準決勝戦

廣陵中學 五A—〇 中京商業

中等學校選抜試合の準決勝戦廣陵對中京は十一月二日午前十一時四分より外苑球場に於て開始。審判杉田屋(球)

島田、黒木三氏薄曇り、風あり。

△中京先攻 (中〇・廣〇) 中京、大鹿恒川共に中飛、櫻井遊匍。

裏の廣陵、角谷四球に出たが志摩の三匍に封殺され、岩本の遊越安打で志摩二進、阪田の三振目捕手の二壘牽制悪投に走者三二進したが八百野中飛して了る。

△第二回 (中〇・廣〇) 中京は鈴木遊三間安打に出て村上のバント三匍となつたが野手二壘封殺に高投して両者を生かし、吉岡の三前のバントに走者三二進し絶好の機会と見へたが後藤二飛、吉田中飛して入らず。

裏の廣陵は、楠木右前安打に先發して部矢の左中間二壘打に生還、濱田の二匍に部矢三進した上山田とのスクイズ成つて生還、角谷は四球に出て二盗し志摩も二壘手左に安打して角谷を還し、岩本の三匍に終つたが廣陵三點を先取して意氣昂がる。

△第三回 (中〇・廣一) 中京、杉浦二飛後大鹿左前に二壘打を放つたが恒川の中飛後櫻井の二側安打に一氣本壘を衝いて右翼の送球に刺され點と成らず。

裏の廣陵、阪田遊匍一壘失に出で八百野の三匍に一壘手再び離壘早くして生かした上阪田の三進を刺さんとして悪投し一點を與へた。此の間八百野は二進し楠木の遊匍で三進したが部矢の遊匍で本壘を衝いて刺さる。濱田も中前安打して出たが山田の遊匍に封殺されて一點に終る。

△第四回 (中〇・廣〇) 中京、鈴木三匍、村上四球に出

たが吉岡投匍、後藤三振に無爲。

裏の廣陵も角谷四球、志摩二壘手右の安打につづいたが岩本捕邪飛に仆れ、阪田の遊匍は志摩を封殺、八百野投匍して點とならず。

△第五回 (中〇・廣〇) 中京、吉田三邪飛、杉浦三匍、大鹿左飛で走者なし。

裏の廣陵も楠木投匍後部矢死球に出たが濱田の投匍に併殺する。

△第六回 (中〇・廣一) 中京、恒川三匍、櫻井右飛落球に生き、鈴木も三壘牽制安打につづいたが村上遊飛、吉岡左飛に死して依然機到らず。

裏の廣陵は山田先づ遊匍ハンブルに出壘し、角谷も中前安打、志摩のバントに送られた上岩本の捕前匍に刺さる、隙に山田生還又一點を加へた阪田は三匍好守に阻まる。

△第七回 (中〇・廣〇) 中京、後藤遊匍、吉田遊三間安打に出て(村上代走)杉浦の左飛後二盗したが大鹿の四球を得た時三盗を企て、刺さる。

裏の廣陵も八百野左前の直球安打に出たが楠木の遊匍で併殺、部矢は左飛して無爲。

△第八回 (中〇・廣〇) 中京、恒川左前安打し、櫻井の右飛後鈴木三本目の三側安打に二走者を置いたが村上遊飛吉岡投匍で尙機を得ず。

裏の廣陵も濱田投匍、山田二飛、角谷捕邪飛で簡單に退く。

△第九回 (中京〇) 中京、後藤左前安打、吉田も遊三間安打し悼尾の活躍を想はせたが杉浦右飛に仆れ大鹿の三匍は吉田を封殺、恒川の遊匍は大鹿を封しよう、無得點に終つた。スコア五A對零、開戦時四十五分。



## 〔概評〕 中京吉田に球威なし

甲子園大會の覇者も今日は攻守に不首尾を極めた。別して投手吉田の不振は甲子園頭の元氣を示す由なくして廣陵の爲に易々と夏の復仇を受けた。

中京の強味は吉田の強味でもあつた。吉田の強味は其の持久力とコントロールにあつた。スピードに壓倒する力もなく、カーヴに威歴の奏味もないが、試合を吞込むだけプレイト度胸と、コントロールに恵まれた自信の力は、バランスのとれたバックを善導してよく其のチームの全能を發揮して來た。中京の覇業は此の整つた攻守力によつて成つたのである。而かも此日の吉田は武器のコントロールに見放されて、其の自信の力を失なつた爲め、放膽のピッチングに多大の萎縮が見へた。廣陵の打者は此の吉田の威力乏しいスタートに乗じて當初に鐵槌を加へた。

投手力を持ち、守備を恃む中京は、由來得點を許さざるチームであつた。夏の豫選から大會を通じても容易に一二點以上を與へない事は中京の誇りであつた。こうした勝利に慣れたチームの常として一度投手力に自信を失ひ、敵手に大きくリードされた時バックの焦慮は意外な破綻を起すものである。吉田の恵まれなかつた中京のバックが五失を算して誇りの守備に痛手を蒙つたことも己むを得ない野球心理である。

守備に脆かつた中京の攻撃も亦常の粘さはなかつた。二回目の無死二走者を置いたチャンスは徒過し、三回目には二壘打の大鹿が櫻井の安打で本壘に刺された胃走(次打者)に此日大當りの鈴木を控へて、七回目吉田が大鹿の四球で三盗した冒險六、八、九回の一死又は無死で二走者を置きながら後打者の打急いだ凡飛球など、試合巧者の中京攻十分中京の逆襲を押さへる力を持つて居た。バックの打力と共に凡てが中京を凌駕した十二分の勝利と言へやう。敗れた中京も四回、五回、七回のピンチを封殺又は美事の併殺をくり返して惱む投手を救つたことは流石は練つた守備軍の意氣を吐いたものと賞してよい。

擊振りとしては物足りないこと夥しかつた。鈴木が三安打し、吉田が二安打し前後九安打を數へながら何れも散發に終つたなども敗軍には己むを得ざる恵なき日でもあつた。勿論中京をして此の焦慮の自滅を招かせたことは廣陵阪田投手の底力を思はせるものであつた。阪田にはプレートの老巧はないか、重いピッチングと確かなコントロールは

(廣 陵)  
打 得 安 讓 盜 三 四 刺 補 失  
敵 點 打 打 壘 振 死 殺 殺 策

8	角	谷	2	1	1	0	1	0	3	4	0	0
7	志	摩	4	0	2	0	0	0	0	3	0	0
9	岩	本	3	0	1	1	0	0	0	2	1	1
1	阪	田	4	1	0	0	1	1	0	2	0	0
6	八	野	3	0	1	1	0	0	0	2	3	0
3	楠	木	4	1	1	0	0	0	0	6	0	0
2	部	矢	3	1	1	0	0	0	1	2	1	0
4	濱	田	4	0	1	0	0	0	0	4	1	0
5	山	田	3	1	0	1	0	0	0	2	4	1
			30	5	8	3	2	1	4	27	10	2

〔時間〕 一時間四十一分

〔併殺〕 杉浦—恒川—後藤

〔二壘打〕 吉田—杉浦—後藤

〔三壘打〕 部矢—大鹿

(先 攻)  
(中 京)  
打 得 安 讓 盜 三 四 刺 補 失  
數 點 打 打 壘 振 死 殺 殺 策

7	大	鹿	4	0	1	0	0	0	1	1	0	0
4	恒	川	5	0	1	0	0	0	0	4	3	0
2	櫻	井	4	0	1	0	0	0	0	4	1	1
9	鈴	木	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0
8	村	上	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0
5	吉	岡	3	0	0	1	0	0	0	0	4	0
3	後	藤	4	0	1	0	0	1	0	12	0	3
1	吉	田	4	0	2	0	1	0	0	1	5	0
6	杉	浦	4	0	0	0	0	0	0	1	7	1

35 0 9 1 1 1 2 24 20 5

		一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
得安敵	點	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
殘	打失壘	0	1	2	0	0	1	1	2	2	9
		0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
		0	2	1	0	0	2	1	2	2	11

		0	3	1	0	0	1	0	0	A	5
得安敵	點	1	3	1	1	0	1	1	0		8
殘	打失壘	1	0	3	0	0	1	0	0		5
		2	1	2	2	0	1	0	0		8

## 広島商業 二A——一 松山商業

準決勝の第二戦廣商對松山は二日午後二時から、片桐(球)廣岡、福澤三氏審判の下に外苑球場に開始、大會唯一の補回戦十二回を重ねた大接戦の末二對一を以て廣商の勝に歸した。閉戦四時二十分。

晴天、風稍強し(投手側より捕手側へ)

△松山先攻。(松0・廣0) 松山、高須三匍、宇野四球に出塁したが藤堂の二匍に封殺、藤堂も尾茂田の三匍に封殺。

裏の廣商も三森三匍、鶴岡三壘右を抜いて安打したが太田三振、灰山中飛に終る。

△第二回 (松0・廣0) 松山、三森右前安打して尾崎のバントに送られたが影浦左飛、山内遊飛で無爲。

裏の廣商は、竹岡三振保田三匍土手遊匍で走者なし。

のドロップを投飛して此の好機空し。

△第六回 (松1・廣0) 松山、藤堂四球を揮って投手暴球に二進し尾茂田の左飛で三進、三森は三匍して二死となつたが尾崎の右飛日光に遮られて二壘打となつた爲め藤堂一點を拾つて両軍最初の生還者となる。影浦遊匍して終る。

裏の廣商は鶴岡三匍太田三振後灰山遊前イレギュラバウンドに出て竹岡も四球につづいたが保田の三匍竹岡を封殺しつた。

△第七回 (松0・廣0) 松山、山内四球に出たが岩見バントを失敗して捕邪飛となり、高須の中飛宇野の投制に空し。

裏の廣商は土手二飛、驥本三振濱崎遊匍して依然振はず。

△第八回 (松0・廣1) 廣商田原驥本に代つて右翼を守る

△第三回 (松0・廣0) 松山、岩見三振、高須左前に直球安打したが宇野の投制に二進したのみ、藤堂一匍で止む。

裏の廣商は驥本遊匍、濱崎久森共に三匍して依然出塁者なし。

△第四回 (松0・廣0) 松山、尾茂田左前安打に先發し三森の一邪飛後、尾崎の中右間安打に三進、尾崎も二盗したが影浦三振、山内一匍して點とならず。

裏の廣商は鶴岡三匍、太田三振灰山遊匍で尙走者なし。

△第五回 (松0・廣0) 松山、岩見又三振、高須右飛宇野三匍で今度は走者を出さず。

裏の廣商は竹岡中越の二壘打を放つたが保田アウドロ攻めを見通して三振、土手は第一球のアウドロを二壘右手に安打し竹岡三進、土手も二盗したが驥本のアウドロに手を下さずして又三振、濱崎の四球で満塁となつた後久森第一球

松山。藤堂中飛尾茂田二飛、三森三匍に走者なし。

裏の廣商は久森中飛後鶴岡三壘横を抜いて安打し三翼手のハンブルする際に一氣三進し太田の左飛で生還同點となる。灰山遊匍。

△第九回 (松0・廣0) 松山、尾崎遊匍好捕に阻まれ影浦は三遊間安打に出たが山内の三振後二盗に死して終る。

裏の廣商(松山古泉山内に代つて一壘に入る)竹岡又中前に直球安打して先發し保田のバントに送られ土手の一邪飛後投手暴投に三進したが田原三匍して點とならず。試合は一對一を以て捕回戦に入る。

△第十回 (松0・廣0) 松山、岩見捕邪飛に仆れ高須中飛の二死後宇野遊匍ハンブルに生きて投手暴投に二進したが藤堂投制して機とならず。

裏の廣商も濱崎三匍し、久森二飛の二死後鶴岡三遊目三飛

安打に出たが太田の遊脩に封殺されて已む。

△第十一回(松0・廣0) 松山、尾茂田遊撃右に安打し三森のバントに進んだが尾崎の三脩に封殺、尾崎は二盗成つたが影浦遊脩して尙無爲。

裏の廣商も灰山遊三間安打に先發して竹岡のバントに進み保田四球で好機に見へたが土手の中前飛球を野手よく取つて保田を二壘に併殺して美事に喰止む。

△第十二回(松0・廣1) 松山、古泉三邪飛岩見高須共に二飛して走者なし。

裏の廣商は田原中前安打に出壘し濱崎のバントは投脩となつて田原を封殺し久森の三脩は又濱崎を封殺して夙くも二死となつたが鶴岡の第一球に三森二盗に成功した上鶴岡第二球目を遊撃越に安打して久森一氣に生還し茲にさしもの大接戦も遂に廣商の勝ちなつた。

### 〔概評〕 久森の脚と鶴岡のバント

松山は前半を壓し、廣商は後半に優勢を示し兩々相拮抗して遙らず稀に見る激戦に終始した事は流石に優勝候補の雌雄争ひとして見榮るある試合であつた。

廣商の灰山投手は、大きなドロップと、投下ろしの直球を混用したが最初はカーブ高くて威力に乏しく松山の要撃を受けた。之が前半廣商の受身となつた原因であつた。併し其の上背を示した投下ろしの直球には美事なスピードを持つて松山は毎回走者を出しながら此の球速に惱まされて機會を掴めなかつた。漸く六回目に四球の走者が投手暴投と日光安打の恵みによつて一點をスコアしたに止つたのは一日光安打の恵みによつて一點をスコアしたに止つたのは一日光安打の恵みに阻まれた爲めであつた。殊に後半戦に入つての灰山はカーブに會心のコントロールを得て衰えざる其

直球のスピードと相凌つて美事の投球を見せた。敵手三森に對して確かな老巧と底力に一段の長を示したものと云へやう。

三森のピッチングも上乘の出来であつた。スピードもよくアウトドロのコントロールも天晴れて、四回迄は唯一人の安打走者を許したのみ、五回に二壘打單打の二安打を與へて初めてピンチに遭つたが會心のカーブに中間打者を三振させて切抜け、七回迄をスコアさせなかつた好投は嘉すべきであつた。八回目に外野手の不覺あつて折角のリードをフイにしたがこれは三森の資ではない。唯激戦回を重ねた力闘の疲労に後半を追はれ、て最後に勝を敵手に委した悔みはあつたがこゝにもバックに今一段の活躍を要求すべきで強ち敗戦の責は三森一人の負ふべきものではなかつた。兩投手共に健闘大に努めた事を賞してよい。

投手の好投と共に守備の兩軍も流石に傳統の巧味を見せた。接戦十二合其間共に一失を算したのみ幾度のピンチを好防した守備は鮮かなものであつた。殊に松山が一回のピンチに土手の中前飛を以て併殺を演じた美技は當日の白眉であつた。

打撃の兩軍は稍投手力に押され氣味であつたが決して試合を無味にするやうなものではなかつた。難を言は兩軍共に球を待ち過ぎて投手を助けた悔みがあつた。バントは双方共機會ある毎によく用ゐたが結局口を利いたものは皆無に終つた。松山は前後五回のチャンスに四度バントを用ゐて二度成功し二度失敗した。これ程用意深い攻法を用ゐる松山が四回尾茂田を安打に出した時どうして益でもバントを用ゐなかつたか此時三森は打つて一邪飛に徒死したがるバントに成功して居れば松山は益で榮な一點を先取し得

られて居たかも知れない結果からの見方ではあるが唯一つ漏らした機会だけに未練が残る。

廣商も四回のチャンスを三度迄バントの攻法を採つた。残る一つの場合は五回目竹岡が二壘打に先發した際で此處は送る必要はなかつた。併し次打者保田が五球凡てを見送つての三振は曲がない、更らに次の土手が安打しながら竹岡は三壘に止まり、一死二走者を置いての打者驥本が又四球悉くを安閑として待つて三振に屠られたことは益恨み盡きざる攻撃振りであつた。廣商の苦戦に陥ちたのも此の拙い攻撃に祟られたのである。

愈十二回目、又先登打者驥本を出した廣商は型の如く濱崎にバントさせた、併しこれは失敗に終つて驥本は封殺された次の久森が三削して濱崎も封殺された。廣商の攻撃も茲で終つたかと思ふ時久森が二盗した 此の二盗が廣商を

回生させたのである。そして此日の活躍打者鶴岡が四本目の安打を放つて首尾克く勝利を挙げたのである。鶴岡は平安戦にも勝利の芽を打出した殊勳者であつたが、此日も亦留めの一撃を以て味方の勝を叩き出した。輝々の勳功は没すべからざるものであつたが其の殊勳の裏に久森の功蹟あつたことを忘れてはならぬ。

(先 攻)		打	得	安	機	盗	三	四	刺	補	失	
(松 山)		數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策	
6	高	須	6	0	1	0	0	0	2	6	0	
7	宇	野	4	0	0	0	0	1	1	0	1	
2	藤	堂	4	1	0	0	0	1	7	1	0	
8	尾	田	5	0	2	0	0	0	3	1	0	
1	三	森	4	0	1	1	0	0	1	1	0	
4	尾	崎	4	0	2	1	2	0	5	0	0	
5	影	浦	5	0	1	0	0	1	0	11	0	
3	山	内	3	0	0	0	0	1	11	0	0	
3	古	泉	1	0	0	0	0	0	5	0	0	
9	岩	見	5	0	0	0	0	2	0	0	0	
			41	1	7	2	2	4	3	35	20	1

(松)		得	安	敵	殘							
		點	打	失	壘							
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
0	1	1	2	0	1	0	0	0	2	1	0	7
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1	1	1	2	0	1	1	0	1	1	1	0	9

(廣)		得	安	敵	殘							
		點	打	失	壘							
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1A	2
1	0	0	0	2	1	0	1	1	1	1	2	10
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1	0	0	0	3	2	0	0	1	1	1	1	10

野 球

打	得	安	犠	盗	三	四	刺	補	失
数	点	打	打	塁	振	死	殺	殺	策
7	久	6	1	0	0	0	2	0	0
6	鶴	6	1	4	0	0	3	3	1
3	太	5	0	0	0	3	13	1	0
1	灰	5	0	2	0	0	2	4	0
8	竹	3	0	2	1	1	3	0	1
4	保	3	0	0	1	1	5	1	0
2	土	5	0	1	0	0	6	1	0
9	驥	3	0	0	0	2	0	0	0
9	田	2	0	1	0	0	0	0	0
5	滋	4	0	0	0	0	1	1	6
									1
									16
									36
									3
									7
									2
									2
									10
									2
									42

(二壘打) 竹岡、尾崎

(併殺) 尾茂田―高須

(投手暴投) 灰山 2、三森 1

(時間) 二時間二十分

### 優 勝 戦

#### 廣 陵 中 學 優 勝

#### 廣 陵 中 學 二 ー 廣 島 商 業

全國中等學校選抜野球試合の優勝戦廣陵對廣商は十一月

三日午前十時三十一分より球審、三谷、壘審、齊藤、片田

三氏審判の下に外苑球場に舉行、晴天、風強し、(風向投

手側より一壘側に)二對一を以て廣陵の勝ちとなり、零時

十五分閉戦した。これを以て第六回神宮体育大會中等學校

野球選手権は廣陵中學の掌に歸し、午後五大學新入試合後

安部磯雄氏より優勝旗及トロフキ、賞狀の授與式を以て目

出度く大會の幕を閉じた。

△廣陵先攻。(陵1・島0) 廣陵角谷四球に出で八百野の

野 球

二壘打して八百野を入れ匂々に一塁を先取阪田の右飛で岩本三進したが、志摩投捕して終る。

裏の廣商は久森三前の内野安打に出で鶴岡のバントに進んだが太田の左飛に久森離壘して併殺さる。

△第二回(陵0・島0) 廣陵、楠木二捕、部矢三振濱田遊捕で走者なし。

裏の廣商は灰山四球、竹岡も三遊間を直球で抜いて出たが保田のバント投飛となつて竹岡を併殺、左手三振して無爲

△第三回(陵0・島1) 廣陵、山田遊捕、角谷は四球に出で二盗したが八百野の二壘手左の直球を保田仆れながら逆シングルに快捕して角谷を併殺す。

裏廣商は田原先づ四球に出で濱崎のバントに送られた後久森三壘線を掠めて二壘打し田原三進、鶴岡の三捕は壘手捕つて離壘の田原を刺さんとして歸壘したが間に會はず野選

となつて満塁となる。次の太田中飛して田原漸く生還、同点となる灰山の遊脩で一駐に止まる。

△第四回(陵0・島0) 廣陵、岩本三脩、阪田三振、志摩は三壘強襲安打の一壘惡投に二進したが楠木投脩に終る。

裏の廣商は竹岡三脩、保田遊脩、土手左飛で走者なし。

△第五回(陵0・島0) 廣陵、部矢遊脩、濱田二脩、山田三振、

裏の廣商は田原遊脩、濱崎三脩後久森三脩ハンブルに出たが鶴岡右飛に己む。

△第六回(陵0・島0) 廣陵、角谷一脩、八百野四球に出て二盗したが岩本三振、阪田右飛で無爲、

裏の廣商も太田四球に出て灰山のバントに送られ竹岡の三遊間直球安打に三進して、好望であつたが保田三邪飛土手遊飛に仆れて點に至らず。

△第七回(陵0・島0) 廣陵、志摩投脩、楠木、部矢も皆アウドロに據つて三振。

裏の廣商も田原左飛、濱崎は遊脩ハンブルに出たが久森の二脩で併殺さる。

△第八回(陵0・島0) 廣陵、濱田山田共に直球振つて當らず三振、角谷アウドロを二脩又走者なし。

裏の廣商も鶴岡二球で遊飛、太田も二球で二脩、灰山も二球で三脩、之亦走者なし。

△第九回(陵0・島1) 廣陵、八百野二脩、岩本二二後直球打つて中右間越えに又大きく三壘打し阪田も續いて第一球の直球を左前に安打して岩本を迎ふ。志摩の三脩に岩本封殺された二死後志摩二三壘を連盗したが楠木の右飛に一點に止まる。

裏の廣商は最後にリードされて奮起したが竹岡投脩、保田

三邪飛、土手三脩に退いて回復を得ず二對一の接戦裡に凱歌廣陵に揚がる。

### 〔概評〕

決勝の一戦も決勝らしい熱戦であつた。技の灰山と力の阪田が両々相峙して遜らざる投手力は共に唯一のアーンドランを許したのみで八回迄を同勢に押し進んだ。此間阪田投手は敵に四安打を許したが其の三本は散發に終らせ、灰山投手は二安打を許したのみに好投した。而かも灰山の勝ち越した二安打は不幸にして最終の九回に出た。そしてそれが三壘打及び單打となつて集注した。これが阪田の勝つて灰山の敗けた所以であつた。

灰山は前二日のセーブした余力を今日は最初から速球と速いカーブで投げ込んだ。不幸にして強努の岩本に覗ひ打たれて最初の痛手を受けたが以後は直球カーブ共に十二分

の威力を示して流石の廣陵勢も一安打と二四球走者を出したのみの嚴封に會つて奪う大勢は廣商壓迫氣味に雄移した。七、八回頃のカーブと直球のスピードは全く三日の連投とは思はれぬ牙えであつた。而かも此のスピードは九回再び強努岩本の健棒に遭つて不起の痛手を負はされたが、玉碎した灰山の健闘は敗れて悔なきに庶幾し。

阪田は強い、三度の併殺を演じたバックの好守に助けられたこともあるが、四安打の散發に止めて剛敵廣商を一點に喰止めたピッチングは其の會心のコントロールと共に温ましき底力によつて得られた天晴れの投手振りと言へよう。甲子園に覇業の成らなかつた廣陵が茲に目出度く優勝の榮を擔つた所以も、新たに此投手力の加はつたチームの遞増に負ふ所は尠くない。

阪田の好投と共に打力の岩本は亦没すべからざる殊勳を樹

てた、最初最後に得點の鐘を興へた二本の長打は、意に任  
かせざる味方の打力を唯一人で背負立つた觀があつた。誠  
に岩本なかりせば決勝の廣陵は、巧まくと灰山の球威に  
慣伏したことは疑ひはない、廣陵の勝利は唯一回巡り合は  
せた首尾のチャンスに二度共美事に掌握した好戦と幸福の  
余慶であつたが此の寶庫を開いた者は實に岩本であつ

た。赫々の勳功、得意想べしである。  
松商戦に破竹の勇を誇つた廣商鶴岡が、暗れの決勝に振  
はなかつたことは遺憾であつた甲子園頭四日間連続して十  
割安打したと言ふ稀代の當り屋村上の振はざりし中京が準  
決勝の廣陵に敗れたと同じく敗軍の將には涙ぐましい不覺  
のあるも戦の常である。

		打	得	安	犠	盜	三	四	刺	補	失
(先 攻)		數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
(廣 陵)		數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策
8	角 谷	2	0	0	0	1	0	2	1	0	0
6	八 百 野	3	1	0	0	1	0	1	2	4	1
9	岩 本	4	1	2	0	0	1	0	1	0	0
1	阪 田	4	1	1	0	0	1	0	1	5	0
7	志 摩	4	0	1	0	2	0	0	3	1	0
3	楠 木	4	0	0	0	0	1	0	4	0	0
2	部 矢	3	0	0	0	0	2	0	1	0	0
4	濱 田	3	0	0	0	0	1	0	2	2	0
5	山 田	3	0	0	0	0	2	0	2	4	1

30 2 4 0 4 8 3 27 16 7

		一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
(廣 陵)	得 點	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	安 打	1	0	0	1	0	0	0	0	2	4
	敵 失 壘	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
(廣 商)	得 點	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	安 打	1	1	1	0	0	1	0	0	0	4
	敵 失 壘	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
	得 點	1	1	2	0	1	2	0	0	0	0



(優勝) 廣陵



(廣商) 打 得 安 犧 盜 三 四 刺 補 失  
數 點 打 打 壘 振 死 殺 殺 策

打	得	安	犧	盜	三	四	刺	補	失	
數	點	打	打	壘	振	死	殺	殺	策	
7	久	森	4	0	2	0	0	0	0	0
6	鶴	岡	3	0	0	1	0	0	1	3
3	太	田	3	0	0	0	0	1	12	0
1	灰	山	2	0	0	1	0	0	1	4
8	竹	岡	4	0	2	0	0	0	0	0
4	保	田	4	0	0	0	0	0	3	5
2	土	手	4	0	0	0	0	1	0	8
9	田	原	2	1	0	0	0	1	3	0
5	濱	崎	2	0	0	1	0	0	0	2
			28	1	4	3	0	1	3	27
									14	1

(二壘打) 岩本、久森  
 (三壘打) 岩本  
 (併殺) 志摩—濱田、阪田—楠木  
 八百野—濱田—楠木、保田—竹岡  
 (野手選擇) 山田  
 (時間) 一時間四十四分

(選 拔 中 學 一 人 一 戦 蹟) (打率順)

チ ーム	試 合 数	勝 数	敗 数	勝 率	打 数	得 点	安 打	2B	3B	HR	壘 打 数	犠 打	盗 塁	三 振	四 死 球	打 撃 数	刺 殺	補 殺	失 策	守 備 率
小 倉	1	0	1	0	35	3	10	0	2	0	14	0	1	3	3	286	23	13	6	860
平 安	1	0	1	0	32	1	9	0	0	0	9	0	3	7	6	281	24	15	3	929
早 實	1	0	1	0	34	3	9	2	1	0	13	0	0	3	1	265	27	19	5	902
廣 陵	3	3	0	1.000	90	13	21	2	2	0	27	5	7	13	17	233	81	38	6	952
松 山	2	1	1	.500	70	6	17	2	2	0	23	4	4	6	5	224	72	37	3	971
廣 島	3	2	1	.667	101	5	22	3	0	0	25	5	4	11	13	218	90	41	3	978
中 京	2	1	1	.500	63	1	13	3	0	0	16	2	1	4	3	207	51	37	6	936
神 港	1	0	0	0	31	0	3	0	0	0	3	0	1	2	0	097	24	8	2	941

(中 等 選 拔 試 合 個 人 戦 蹟) (二試合以上の出場者)

シ ー ト	学 校	試 合	打 数	得 点	安 打	2B	3B	HR	壘 打	犠 打	盗 塁	三 振	四 死	打 率	刺 殺	補 殺	失 策	守 備 率
右	鈴 木 (中)	2	7	1	4	1	0	0	5	0	0	1	0	.571	1	0	0	1.00
右	岩 本 (陵)	3	11	3	6	1	2	0	11	1	1	2	1	.545	5	1	1	.875
中	竹 岡 (廣)	3	11	0	6	1	0	0	7	1	0	2	1	.545	4	0	0	1.00
中	尾 茂 田 (松)	2	9	0	4	0	0	0	4	0	0	1	0	.444	5	2	0	1.00
遊	鶴 岡 (廣)	3	12	2	5	0	0	0	5	1	0	0	0	.417	12	9	1	.955
三	久 森 (廣)	3	14	1	4	1	0	0	5	0	2	0	1	.286	5	0	0	1.00
一	山 内 (松)	2	7	1	2	0	1	0	4	0	0	1	1	.286	23	0	1	.958
三	三 森 (松)	2	7	1	2	0	1	0	4	1	0	0	1	.286	1	1	0	1.00
二	尾 崎 (松)	2	7	1	2	1	0	0	3	2	2	0	0	.286	8	3	1	1.00

投吉	田(中)	2	7	0	2	0	0	0	2	0	1	0	0	.286	1	9	0	1.00
一後	藤(中)	2	7	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	.286	27	0	0	1.00
右岩	見(松)	2	7	1	2	0	0	0	2	1	1	2	1	.286	1	0	0	1.00
左志	摩(陵)	3	11	1	3	0	0	0	3	0	2	0	0	.273	8	1	0	1.00
投阪	田(陵)	3	11	1	3	0	0	0	3	0	1	2	2	.273	3	6	0	1.00
二恒	川(中)	2	9	0	2	1	0	0	3	0	0	1	0	.222	6	4	0	1.00
捕藤	堂(松)	2	9	2	2	0	0	0	2	0	0	0	1	.222	10	3	0	1.00
捕部	矢(陵)	3	10	2	2	1	0	0	3	0	0	2	1	.200	10	2	0	1.00
二濱	田(陵)	3	10	2	2	0	0	0	2	0	0	2	1	.200	11	6	0	1.00
投灰	山(廣)	3	11	0	2	0	0	0	2	1	0	0	1	.182	3	11	0	1.00
捕土	手(廣)	3	12	0	2	1	0	0	3	0	1	1	1	.167	20	2	0	1.00

中角	谷(陵)	3	6	2	1	0	0	0	1	0	2	0	8	.167	6	1	0	1.00
右田	原(廣)	3	6	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	.167	3	0	0	1.00
左大	鹿(中)	2	6	0	1	1	0	0	2	1	0	0	2	.167	4	0	0	1.00
一楠	木(陵)	3	13	1	2	0	0	0	2	0	0	2	0	.154	25	0	0	1.00
右杉	浦(中)	2	7	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	.143	5	14	2	.905
捕櫻	井(中)	2	8	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	.125	6	2	1	.889
投三影	浦(廣)	2	9	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	.111	2	16	0	1.00
左宇	野(廣)	2	9	0	1	1	0	0	2	0	0	1	1	.111	2	0	1	.667
三山	田(松)	3	9	1	1	0	0	0	1	2	0	2	0	.111	5	11	3	.842
遊八百野	(松)	3	9	1	1	0	0	0	1	2	1	1	2	.111	13	0	12	.909

選手名	年齢	守備	試合	打	得点	安打	2B	3B	HR	塁打	犠打	盗塁	三塁打	四球	打率	刺殺	補殺	失策	守備率
遊高須 (松)	2	11	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	.091	4	9	1	.929
二保田 (廣)	3	11	0	1	0	0	0	0	1	1	0	2	1	.091	8	10	0	1.00	
一太田 (廣)	3	12	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0		32	1	0	1.00
三濱崎 (廣)	3	7	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0		2	8	2	.833
中村上 (中)	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0		1	0	0	1.00
三吉岡 (中)	2	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		0	8	0	1.00
右驥本 (廣)	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0		3	0	0	1.00

(出場一試合の者)

選手名	年齢	守備	試合	打	得点	安打	2B	3B	HR	塁打	犠打	盗塁	三塁打	四球	打率	刺殺	補殺	失策	守備率
遊波利 (平)	1	4	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	.750	2	4	0	1.00	
一内海 (平)	1	3	0	2	0	0	0	0	2	0	0	1	1	.667	9	0	0	1.00	
中金子 (早)	1	3	1	2	0	0	0	0	2	0	0	1	1	.667	3	1	0	1.00	
一重佳 (小)	1	4	2	2	0	1	0	4	0	0	0	0	0	.500	7	1	1	.889	
一安永 (早)	1	4	1	2	2	0	0	4	0	0	0	0	0	.500	12	1	1	.929	
捕新富 (小)	1	4	0	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	.500	3	3	1	.857	
捕島津 (早)	1	4	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	0	.500	1	3	1	.800	
三山田 (小)	1	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	.500	4	1	0	1.00	
右中川 (平)	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	.333	1	0	0	1.00	

齒 幣

左山本(平)	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	.333	2	2	0	1.00
左太田(神)	1	3	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	.333	2	0	0	1.00
二島(神)	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	.333	4	0	0	1.00
左荒井(早)	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	.333	1	0	1	.500
捕田川(早)	1	4	1	1	0	1	0	3	0	0	0	0	.250	2	3	0	1.00
二和田(平)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	.250	3	3	0	1.00
遊清瀬(神)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	.250	2	3	1	.833
投植田(小)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	.250	1	5	1	.857
右田才(小)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	.250	5	2	2	.778
二藤本(小)	1	4	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	.250	3	1	0	1.00
左酒井(小)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	.250	0	0	1	0

三星野(早)	1	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	.250	3	4	0	1.00
中松井(小)	1	5	1	1	0	1	0	3	0	0	0	0	.200	1	0	0	1.00
三中村(平)	1	5	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	.200	2	5	1	.875
右清水(早)	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	2	.818
二本橋(早)	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1.00
遊鶴田(小)	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中平田(神)	1	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1.00
捕高島(神)	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	1	0	1.00
三釣(神)	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	.800
右伊藤(平)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0

齒 幣

捕	岡	村(平)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4	0	1	0	.883
中	本	田(平)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1.00	
搜	岩	木(神)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1.00	
一	村	上(神)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	1.00	
左	瀧	田(神)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1.00	
右	三	明(早)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一	古	泉(松)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1.00
左	光	林(早)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PH	山	口(平)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

昭和七年六月一日印刷  
昭和七年六月十五日發行

非賣品

京市四谷區靈ヶ丘口

發行所

明治神宮體育會

編輯人

宮木昌常

東京市神田區水川町三三ノ一號

印刷人

鈴木貞助

印刷所 凡人社印刷所

東京市神田區小川町廿二番地一號